天窓から自然光の降り注ぐ吹き抜けにポットを張り、エアープランツがいくつも吊り下げられた。不思議な浮遊感の漂う空間に仕上がっている　設計／蒲牟田健作　撮影／タナカシンイチ

Will you enjoy the small garden?

はじめよう！「小さな庭」のある暮らし

PART 2

もっと住まいをナチュラルに！

緑をデザインするキーワード8

植物の持つ潤いは、毎日の暮らしに安らぎと活力をもたらしてくれる。
大がかりな庭園がなくても大丈夫。お気に入りのひと鉢を部屋の隅にさりげなくあしらうだけでもいい。
それは、くつろぎのひとときを彩る、あなただけの「小さな庭」。
すぐにでも手軽に取り入れられるグッズから本格的な緑化のアイデアまで
住まいの中に緑をデザインするためのキーワードを紹介しよう。

1. エアープランツ

土がなくても鉢がなくても元気に育つ！
アクセサリーの感覚でインテリアの一部に

上／チランジア・ウスネオイデス 1575円（税込）　サイズ：長さ35～45㎝前後　小写真／エアプランツは形状のバリエーションが豊富。組み合わせて飾るのも楽しい　問いい庭.jp ☎082・271・1244　http://e-28.jp/

一般的に植物が生育するには、土に根を張り、水を絶やさないことが条件になる。

しかし、「エアープランツ」と呼ばれるある種の植物は、空気中から水分を摂取するため、週に1～2度、霧吹きで葉を湿らせるだけでOK。もともと岩や樹木に張り付くものなので、土も必要ない。水をやりすぎない、風通しのよいところに置く、といったちょっとしたコツを理解すれば、手間がかからず、初心者でも無理なく育てることができる。

葉の形には様々なバリエーションがあるので、バスケットや陶器などを器として何種類か組み合わせてみるのも楽しい。部屋のアクセサリーとして気軽にインテリアに加えることができる。

2. 自由に飾る

リビングの壁に、食卓に、ベッドサイドに。
まるでフォトフレームのように緑をあしらう

写真は16ピースのポットを入れるタイプ。ポットの土は保水能力が高く、表面を舗装加工している。食卓の上に置いても周囲に水が染み出ることはない。水やりは10日に一度程度ですむ。交換用のポットセットも販売中

プランツフレームアート「ボスコ」　2万6250円（税込）
サイズ：W335×D75×H370㎜　重さ：約4000g
植物の種類：サンデリアーナ、アイビー、サンスベリア、オキシカルジウム
問日比谷花壇　☎0120・001187　http://www.hibiyakadan.com/eco/

周囲の景観を美しく切り取るピクチャーウィンドウは、一幅の絵画のように安らぎを与えてくれる。しかし、もし近隣の環境に恵まれないようなら、この「プランツフレームアート」を取り入れてみるのもいいだろう。

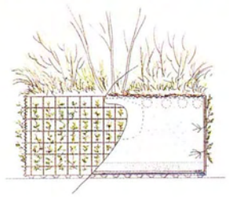
奥行き7・5㎝の特製フレームの中に観葉植物を植えたポットを組み込んだもので、窓辺にそのままフォトフレームのように立てかけたり、専用の金具で壁に飾ったりすることができる。

ポットには顆粒状粘土が使われているので、腐敗・分解せず、衛生的。土の表面を舗装加工しているので、砂粒がこぼれ落ちることもない。ひと株ごとにポットを入れ替えてフレーム内の配置をアレンジするのも楽しそうだ。

3. 5×緑（ごばいみどり）

それは「小さな里山」。古来の在来種を
身近に愛でるグリーンキューブ

上／ひとつの里山は、それぞれ数十種以上の樹木と野草で構成されている。そんな多様で豊かな植生を模したのが、「5×緑」。ベランダに置くだけで里山の自然が再現できる　右／ユニットの断面図。亜鉛アルミニウムメッキ鉄線を用いた堅牢なカゴの中に特殊な人工土壌を詰め、不織布やネットでカバーしている



里山ユニット 20㎝キューブ
1万8900円（税込）
サイズ：W200×D200×H200㎜
植物を入れた高さ：H700㎜
植物の種類：木本類4種、草本類5種
問アネックス　☎03・3280・2041
http://www.5baimidori.com/

直方体の金網に人工土壌を詰め、底面以外の5方向に植栽を施したグリーンキューブ、その名も「5×緑」。1か所に置くだけで、通常の鉢植えやプランターの5倍の面積で緑が味わえるというわけだ。

そこに寄せ植えされた植物は、日本の雑木林でよく見られるコナラやクヌギ、ヤマツツジ、ヤマブキなどの在来種10～25種類が中心。その苗の多くは、福島県と茨城県の種苗園で品質管理されたもので、除草剤はいっさい使われず、自然本来の健康的な状態である。

キューブの中には、ほんの少し前の日本では当たり前のように見られた里山の姿が。都会のベランダでも、そんな懐かしい風景を再現できるかもしれない。

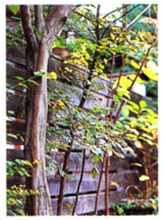
※W＝幅、D＝奥行き、H＝高さ

左／永田邸の建物の周囲をぐるりと植栽が取り巻き、四季の折々で鮮やかな彩りを添える　右／庭は決して広くはないが、多様な植物が生き生きと息づいており、魅力的な風景を生み出している。庭の奥の少し高い位置には水鉢を埋め、その周囲に野草をちりばめた。植物が地盤面より上にあるので、室内からもその様子をよく見ることができる

Will you enjoy the small garden?

PART 3

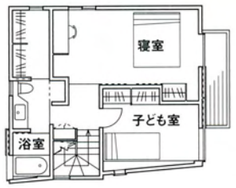
妻は子どもの頃から里山に親しんできた根っからの植物好きで、職業訓練所で植木の勉強をしたほどだ。庭を愛し、手入れを重ねてきた。「好きな花だけではだめなんです。ある程度競争相手がいると、負けまいとして植物が元気になるんです」。幅2.5m、長さ15mの「緑の小道」には、日本の野山に自生する在来種がいっぱいに。そこを歩くだけで季節を肌で感じられる

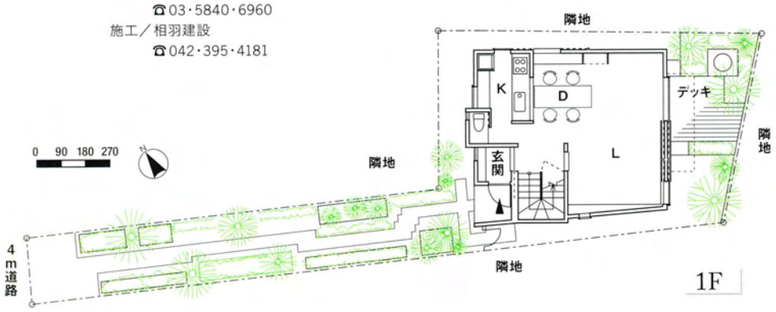


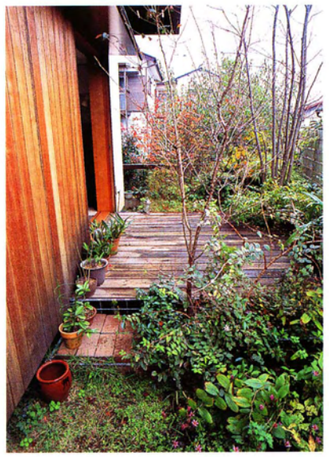
庭には200種もの植物が。野生に近い環境には、各種の虫や小動物も生活している

Data

設計／永田昌民
(N設計室)
〒161-0033
東京都新宿区下落合3-17-42-207
☎03・3951・6355
造園／田瀬理夫(プランタゴ)
☎03・5840・6960
施工／相羽建設
☎042・395・4181







ウッドデッキの一部をカットしてヤマボウシを植えた。豊かに茂った植栽は、外部からの視線をさりげなく遮るバリアとしても機能する

CASE 3

愛する庭を移した「緑の小道」

周囲に畑や果樹園が残る住宅地の一画にひと際目を引く「緑の小道」がある。ここは建築家・永田昌民さんの自邸。長年手を掛けた前の家の植栽を土ごと移植している。

東京・東久留米市　永田邸　家族構成／夫　妻　長女
敷地面積／127.28㎡

建築家と造園家が豊かなアプローチを実現

永田さんは、建主に対し、「落葉樹を1本植えませんか」と必ず提案する。自身も27年にわたり、妻とともに約50㎡の庭と付き合い、手塩に掛けて手入れしてきた経験から、自然の営みの素晴らしさや、植栽のもたらしてくれる心の平穏を実感しているからだ。

そんな永田さんが旗竿地に自邸を建てることになったとき、造園家の田瀬理夫さんに相談を持ちかけた。「ずっと一緒に暮らしてきた上と植物とその周りの豊かな生き物たちを、新しい家に持っていくことはできないだろうか」と。

田瀬さんは、鉄製の型枠を使って庭の土を植栽ごと切り取り、移植するという手法を提案した。旗竿地特有の長いアプローチは、引っ越してきた植栽で埋め尽くされることに。カツラ、コナラ、イヌシデ、クマシデといった落葉樹が並び、その下には季節の草花が植えられた。どれも昔から野山に自生している在来種ばかりだ。

「空がどう見えるか、葉が落ちたときに隣家がどう見えるか、いろいろな場所に立ってみて、植える場所を決めました」と田瀬さん。

「緑の小道」が生み出す、豊かな自然の息吹。永田邸は庭と一体になって、魅力的な空間をつくり上げている。